井伏鱒二参考文献年表稿

寺横武夫

はじめに

(一) 本稿は、将来網羅集成を企図して用意されるであろう目録のための粗稿である。したがって、分類は意に介さず、刊行年月順に排列することを専らとした。

(二) 逸せられがちな文庫や文学全集類の解説文、小説集付載の序跋文、月報や付録所載の記事などもできるだけ採録することに努めた。ただし、解題、年譜、注釈、事辞典類の記事は記載を省略した。

(三) 努めて初出に従ったが、初出未詳のもので発表(執筆)年次の分っているものはそれを、それも不明のものはのちの単行書の刊行年月のところに録した。

(四) 初出を示したものでも、再録した単行書類が確認できるものは〈 〉内に編注として示した。

(五) 記載の体裁は、筆者名、文献名、初出誌紙名(出版社名、書名)の順とした。下欄数字は月名を示し、新聞などは8・15として八月十五日を意味する。また、*印を付したものは編者において未確認を示す。

(六) 調査に際しては、これまで発表されている以下の諸文を基本文献として用い、適宜その他で補った。すなわち、無署名「主要研究書目・参考文献」(角川書店『昭和文学全集』月報36、昭二九・五)、米田精一「井伏鱒二参考文献」(講談社『日本現代文学全集』昭三七・二)、無署名「参考文献」(筑摩書房『現代文学大系』昭四一・三、ならびに昭五一・五)、日外アソシエーツ社『日本文学研究文献要覧』(昭五二・四)、東郷克美「主要参考文献」(明治書院『資料による近代日本文学』昭五四・七)、大越嘉七「井伏鱒二参考文献目録」(法政大学出版局『井伏鱒二の文学』昭五五・九)、涌田佑「書誌及び研究参考文献を配した井伏鱒二年譜」(「現代文学」昭五三・一二、ならびに明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一)の目録類、および、島田昭男「井伏鱒二」(学燈社『近代文学研究必携』昭三六・九)、谷沢永一「井伏鱒二研究案内」(筑摩書房『現代日本文学大系』月報35昭四五・八)、伴悦「井伏鱒二」(『解釈と鑑賞』昭五〇・七)、石崎等「井伏鱒二研究史展望」(有精堂『井伏鱒二・深沢七郎(日本文学研究資料叢書)』昭五二・一一)、涌田佑「井伏鱒二」(明治書院『研究資料現代日本文学』第一巻、昭五五・三)、寺横武夫「井伏鱒二研究略史」(東京書籍『井伏鱒二(作家・作品シリーズ7)』昭五五・五)の研究史叙述である。

(七) 倉卒の作業によったため、脱漏や誤謬の生じていることを恐れる。博雅の士のご示教を願ってやまない。

一九二六(大正一五)年

富沢有為男　二人の新人に就いて　*鷲の巣　6

一九二七(昭和二)年

富沢有為男　再び井伏鱒二に就いて　*不同調　2

村松　正俊　未来を創造する新人は誰　読売新聞　2・3

一九二八(昭和三)年

宇野　浩二　月評的時評　新潮　11

一九二九(昭和四)年

○「(同人印象)井伏鱒二論」(舟橋聖一「井伏鱒二さん」、蔵原伸二郎「井伏鱒二君」、阿部知二「ことはり書」)　文芸都市　2

古沢安二郎　五月号の創作評(山椒魚)　文芸都市　6

牧野　信一　*エハガキの激賞文　時事新報　7

一九三〇(昭和五)年

淀野　隆三　末期ブルジョア文学批判—小ブルジョア文学としてのいはゆる『芸術派』の文学について　詩・現実　9

一九三一(昭和六)年

○「(小特集)新作家のプロフィール〔I〕井伏鱒二を語る」(牧野信一「彼に就いての挿話」、上泉秀信「隣人を語る」、中村正常「彼の風貌と姿勢と」

雅川滉「なつかしき現実と」）新潮　1
〈のち牧野文は「井伏鱒二―その作と人」と改題して第一書房『牧野信一全集3』昭一二・七、人文書院『牧野信一全集3』昭三七所収〉

○「『仕事部屋』誌上出版記念会」（佐藤春夫「一種温雅なる有情骨稽を」、河上徹太郎「井伏君のナンセンス」、宇野浩二「井伏鱒二」、中村地平「井伏鱒二論」）　作品　9
〈中村文はのち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収〉

瀬沼茂樹　井伏鱒二論―感想的なエスキイス　新潮　10
〈のち木星社書院『現代文学』昭八・一所収〉

一九三二（昭和七）年

雅川滉　井伏鱒二　新潮　5

小林秀雄　井伏鱒二の作品について（白水社『続文芸評論』）（初出未詳。一説に「文芸春秋」昭六・二）　11
〈のち日産書房『続文芸評論』昭一三・一一等所収〉

○「『川』誌上出版記念会」（中村正常「『川』誌上出版記念会」、河上徹太郎「井伏鱒二の『川』について」、中島健蔵「私語」、林芙美子「『川』のお祝い」）　作品　12

一九三三（昭和八）年

里見弴　老自戒（文芸時評）　文芸春秋　3

春山行夫　文芸時評　行動　12
〈のち厚生閣『文芸評論』昭九・七所収〉

一九三四（昭和九）年

今日出海　文芸時評　行動　3

瀬沼茂樹　井伏鱒二の作品　行動　4

河上徹太郎　序文（作品社『田園記』）　5

伊藤整　井伏鱒二について　文芸首都　6

○「人としての井伏鱒二氏」（阪中正夫「井伏鱒二氏の人徳」、青柳瑞穂「田舎だより」、林芙美子「井伏鱒二さん」、篠原文雄「懐しき井伏鱒二氏」）　文芸首都　9

尾崎士郎　文芸時評　行動　10

一九三五（昭和一〇）年

牧野信一　月評　読売新聞　4・?

神西清　井伏鱒二　文学界　5
〈のち文治堂書店『神西清全集6』昭五一・一所収〉

林芙美子　文芸時評　行動　9

小林秀雄　編集後記　文学界　10

一九三六（昭和一一）年

河上徹太郎　文芸時評（オロシヤ船）　新潮　1

一九三七（昭和一二）年

一九三八（昭和一三）年

谷崎精二　井伏鱒二論（日月書院『文学の諸問題』）　1
〈のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収〉

保高徳蔵　井伏鱒二の人を語る　月刊文章　4

一九三九（昭和一四）年

河上徹太郎　井伏鱒二「禁礼」　新女苑　7

河上徹太郎　井伏鱒二「多甚古村」帝大新聞　11・8
〈のち実業之日本『道徳と教養』昭一五・七所収〉

（無署名）　文学的人物論・井伏鱒二　文芸　11

中村地平　井伏鱒二論　文学者　12
〈『作品』昭六・九所載文を全面的に書き改めたもの。のち皆美社『中村地平全集3』昭四六・七所収〉

一九四〇（昭一五）年

中島健蔵　解説（新潮社『丹下氏邸』（昭和名作集11））　2
〈のち河出書房『現代家論』昭一六・九所収〉

浅見淵　井伏鱒二（竹村書房『現代作家卅人論』）　10

仁吉　韜晦の風格（中堅作家論6・井伏鱒二）　東京新聞　10・21

一九四一（昭一六）年

酒井森之介　井伏鱒二論（修文館『展望・現代日本文学』）　3

板垣直子　若干の中堅作家―丹羽・石川・石坂・井伏・その他（第一書房『事変下の文学』）　5

宇野浩二　井伏鱒二（中央公論社『文章往来』）　10
〈のち創芸社『小説の文章』昭二三・一〇、

近代文庫*『小説の文章』昭二八・四所収〉
谷　丹三　井伏鱒二の滑稽について　作家精神 10

一九四二（昭一七）年

河上徹太郎　歴史的方法の勝利　文学界 5
宇野　浩二　井伏の「鯉」と嘉村の「業苦」他（中央公論社『文学の三十年』）　8

一九四三（昭和一八）年

一九四四（昭和一九）年

長谷川鑛平　井伏鱒二論（小学館『近代日本文学研究・昭和文学作家論（上）』）　4
〈のち真善美社『歩行者の論理』昭二三・二所収〉

一九四五（昭和二〇）年

一九四六（昭和二一）年

一九四七（昭和二二）年

長谷川鑛平　暁と一雄と鱒二　文芸 3
〈のち真善美社『歩行者の論理』昭二三・二所収〉

亀井勝一郎　井伏鱒二論　文学界 11
〈のち文体社『文学と信仰』昭二四・五、角川文庫『現代作家論』昭二九・四所収〉

一九四八（昭和二三）年

亀井勝一郎　解説（新潮文庫『夜ふけと梅の花』）　1
寺田　透　井伏鱒二論　批評* 3
〈のち「井伏鱒二のユマニテ」を加えて改造社『作家私論』昭二四・六、さらに「最近の井伏氏」を加えて筑摩書房『現代日本文学全集41』昭二八・一二、英宝社『昭和の作家たち（Ⅱ）』昭三〇・一一、講談社『同時代の文学者』昭三一・五、有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一等所収〉

太宰　治　後記（筑摩書房『井伏鱒二選集』第一巻〜第四巻）　3〜11
西村　孝次　解説（細川書店『現代日本文学選集6』）　5
○*「井伏鱒二選集通信」（筑摩書房）（第一号・寺田透「井伏氏のユマニテ」、第二号・亀井勝一郎「人生足別離」、河上徹太郎「岩国にて」、伊馬春部「あど・ばるうん記」、第三号・尾崎一雄「鮎と岩魚」、木山捷平「井伏文学またぎき」、青柳瑞穂「井伏君の歩調」、耕治人「井伏鱒二氏」、第四号・伊藤整「井伏鱒二小論」、神保光太郎「井伏鱒二と山下奉文」、第六号・手塚富雄「井伏氏の芸術雑感」、神保光太郎「井伏鱒二と山下奉文(三)」その他未詳）　9〜昭24・9
上林　暁　後記（筑摩書房『井伏鱒二選集』第五巻）　12

一九四九（昭和二四）年

杉浦　明平　庶民文学の系譜―井伏鱒二について　午前* 2
〈のち「井伏鱒二」と改題して草木社*『作家論』昭二七・二、未来社『現代日本の作家』昭三一・九、筑摩書房『現代日本文学大系65』昭四五・八所収〉

伊藤　整　井伏鱒二の世界　展望 3
〈のち「井伏鱒二小論」と改題して筑摩書房『作家論』昭三六・一二所収〉
上林　暁　後記（筑摩書房『井伏鱒二選集』第六巻〜第九巻）　3〜9
河盛　好蔵　井伏鱒二（わが交友録）　展望 11
林房雄・他　創作合評（本日休診）　群像 11

一九五〇（昭和二五）年

伊藤　整　解説（新潮文庫『多甚古村』）　1
磯貝　英夫　近代文学に於ける笑の定着―井伏鱒二をめぐつて　日本文学研究 4
〈のち正副題を倒置して柳原書店『昭和作家研究』昭三〇・五、有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収〉
青野　季吉　序文（文芸春秋社『本日休診』）* 6
亀井勝一郎　解説（新潮社『井伏鱒二集』）　6
寺崎　浩　井伏鱒二　文芸 7
亀井勝一郎　井伏鱒二　読売評論 8
青野　季吉　解説（河出書房『現代日本小説大系・別冊第二巻〈戦後篇2〉』）　9
中島　健蔵　解説（河出書房『現代日本小説大系52』）* 10
超党派（河上徹太郎）　井伏鱒二　読売新聞 12・4
〈のちダヴィッド社『文学手帖』昭二七・一、創元社『現代随想全集22』昭二九・五所収〉

一九五一（昭和二六）年

上林　暁　律義な井伏鱒二　文学界 1
坂本　浩　井伏鱒二「本日休診」解釈と鑑賞 9
臼井　吉見　解説（創元文庫『集金旅行・さざなみ軍記』）　10
〈のち「井伏鱒二の文学」と改題して筑摩書

房『人間と文学』昭三二・五所収〉

武田泰淳　井伏鱒二　群像　11
〈のち創元社『井伏鱒二作品集（第一巻）』昭二八・四、厚文社『人間・文学・歴史』昭二九・五、筑摩書房『新選現代日本文学全集1』昭三三・一所収〉

河盛好蔵　解説（池田書店『かきつばた』）　12

一九五二（昭二七）年

小原壮助　興味狙う回想の虚実（大波小波）　東京新聞　1・31

伊藤整　解説（河出書房『現代日本小説大系45』）　5

（無署名）　井伏鱒二〈作家に聴く〉　文学　9
〈のち岩波新書『現代の作家』昭三〇・九所収〉

村松定孝　井伏鱒二（学燈社『現代文学総説Ⅱ（大正昭和作家篇）』）　10

臼井吉見　解説（筑摩書房『本日休診・集金旅行（現代日本名作選）』）　11

一九五三（昭和二八）年

山本健吉　「本日休診」の悠子　朝日新聞　2・8
〈のち講談社『小説に描かれた現代婦人像』昭二九・三所収〉

○　解説（創元社『井伏鱒二作品集』第一巻・武田泰淳、昭二八・四、第二巻・沼田卓爾、昭二八・五、第三巻・大岡昇平、昭二八・六、第四巻・上林暁、昭二八・七、第五巻・永井龍男、昭二八・九）　4～9

三好達治　思出すこと三四　文芸　5

○　特集「井伏鱒二　人と作品」（永井龍男「やるまいぞ」、河上徹太郎「文学論ノート」、藤原審爾「井伏文学雑見」、三浦朱門「モノロギスト」）文学界　7

天地人　井伏鱒二（人さまざま）　朝日新聞　7・3

小沼丹　あとがき（「要書房『点滴』」）　9

河上徹太郎　解説（筑摩書房『現代日本文学全集41井伏鱒二集』）、月報5（通谷繁雄「井伏鱒二の小説」、永井龍男「心あたたまる」、阿部真之助「井伏鱒二覚書」、青柳瑞穂「井伏鱒二の骨董観」、石井桃子「井伏さんのこと」）　12

山本健吉　解説（角川文庫『本日休診・遥拝隊長』）　12

寺田透　最近の井伏氏（筑摩書房『現代日本文学全集41』）　12
〈のち未来社『現代日本作家研究』昭二九・五、英宝社『昭和の作家たち（Ⅰ）』昭三〇・一一、講談社『同時代の文学者』昭三一・五所収〉

いそぎんちやく　さっぱりした処置（大波小波）　東京新聞　12・1

一九五四（昭和二九）年

山本健吉　解説（角川書店『昭和文学全集36井伏鱒二集』）、月報（火野葦平「井伏鱒二さんのこと」、河盛好蔵「生活を大切にする人」、上林暁「井伏氏の肖像」）　5

小沼丹　解説（創元社『現代随想全集22』）、附録「随想18」（巌谷大四「河上さん、井伏さん」）　5

小山清　井伏鱒二の生活と意見―作家の見た作家　文学界　6

長谷川泉　屋根の上のサワン　解釈と鑑賞　7
〈のち至文堂『近代名作鑑賞』昭三三・六所収〉

米田利昭　屋根の上のサワン　解釈と鑑賞　7

杉森久英　井伏鱒二氏の文学　東京新聞　7・3、4

臼井吉見　解説（角川文庫『集金旅行』）　9

大石初太郎「本日休診」の用語用字　言語生活　10

中村光夫　解説（新潮社『昭和名作選6・黒い壺』）　12

一九五五（昭和三〇）年

青柳瑞穂　庶民の中の小説家―井伏鱒二の人と作品　別冊文芸春秋　2
〈のち正副題倒置して十返肇編『作家の肖像』近代生活社、昭三一・一所収〉

福田清人　井伏鱒二（中央公論社『十五人の作家との対話』）　2

村松定孝　井伏鱒二の芸術観（寿星社『近代日本文学の系譜』）　3
〈のち現代教養文庫『近代日本文学の系譜』昭三一・七所収〉

中村光夫　解説（彰考書院『名作歴史文学選集13さざなみ軍記』）　5

浅見淵　吉利支丹文学に関連して　群像　5
〈のち弘文堂『昭和の作家たち』昭三二・一二、河出書房新社『浅見淵著作集1』昭四九・八所収〉

上林暁　解説（新潮文庫『遥拝隊長・本日休診』）　6

十返　肇　井伏鱒二（講談社『五十人の作家』）7

一九五六（昭和三一）年

浅見　淵　「漂民宇三郎」について　文学界　1
＜のち弘文堂『昭和の作家たち』昭三二・一二、河出書房新社『浅見淵著作集』昭四九・八所収＞

河上徹太郎　解説（岩波文庫『山椒魚・遥拝隊長』）　1

小沼　丹　解説（角川文庫『ジョン万次郎漂流記』）　2

米田　精一　井伏鱒二と「山椒魚」解釈と鑑賞　3

片岡　懋　何をどのように教えるか＜近代文学＞（「『槌ツア』と『九郎治ツアン』は喧嘩して私は用語について煩悶すること」）　国語と国文学　4

浅見　淵　井伏鱒二会見記　群像　6
＜のち弘文堂『昭和の作家たち』昭三二・一二、河出書房新社『浅見淵著作集2』昭四九・八所収＞

古林　尚　井伏鱒二論　日本文学　6、11

河上徹太郎　井伏鱒二「漂民宇三郎」　群像　6

佐々木基一　解説（岩波文庫『多甚古村』）　8

野地　潤家　井伏鱒二の作品の中国弁　言語生活　10

伊馬　春部　解説（角川文庫『屋根の上のサワン』）　12

一九五七（昭和三二）年

小堀セイ子　井伏鱒二の文体について　実践文学　7

山本　健吉　解説（新潮文庫『集金旅行他』）　10

中村　光夫　井伏鱒二論　文学界　10、11
＜のち新潮社『現代作家論』昭三三・一〇、有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞

平野　謙　井伏鱒二『駅前旅館』（初出誌未詳）　11
＜のち河出書房新社『新刊時評上』昭五〇所収＞

本多　秋五。野間宏、北原武夫　創作月評（「駅前旅館」）　群像　11

サボテン　「井伏鱒二論」に一言（大波小波）　東京新聞　11・2

河上徹太郎　井伏鱒二「駅前旅館」と「七つの街道」　東京新聞　12・？

一九五八（昭和三三）年

有吉佐和子　井伏鱒二　日本読書新聞　1・1

梅崎　春生　左手の文学―「駅前旅館」論　新潮　3

長谷川　泉　鯉　解釈と鑑賞　8、9
＜のち至文堂『新編近代名作鑑賞』昭四五・五所収＞

磯貝　英夫　小説文体と生活語の問題―井伏鱒二と森鷗外をめぐって　文学　9
＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一、明治書院『現代文学史論』昭五五・三所収＞

浅見　淵　解説（筑摩書房『新選現代日本文学全集1井伏鱒二集』）、付録2（上林暁「井伏さんとのやりとり」、山本健吉「井伏さん雑感」、瑞伊之助「一読者として」、壺井栄「井伏鱒二氏についての正直な話」、安岡章太郎「井伏さんとマタタビ」）　11

一九五九（昭和三四）年

宮倉徳二郎　解説（河出書房新社『日本国民文学全集9平家物語』）　3

伊馬　春部　解説（角川文庫『貸間あり・おこまさん』）　6

小林　秀雄　現実と小説と映画　文芸春秋　8
＜のち「井伏君の『貸間あり』」と改題して文芸春秋社『考へるヒント』昭三九・五所収＞

（無署名）　井伏鱒二「珍品堂主人」　朝日新聞　11・1

河上徹太郎　著者へ（井伏鱒二著「珍品堂主人」）　産経新聞　11・2

河上徹太郎　井伏文学の持味（「珍品堂主人」と「木靴の山」）　読書人　11・9

一九六〇（昭和三五）年

磯貝　英夫　井伏鱒二と高見順の文体　国文学　5
＜のち明治書院『文学論と文体論』昭五五・一一所収＞

中村　光夫　解説（新潮社『日本文学全集32井伏鱒二集』）、付録（丸岡明「井伏鱒二と井伏鱒二」、安岡章太郎「知らぬが仏」）
＜同社『日本文学全集22』昭四二・九も同内容＞　5

浅見　淵　解説（東西五月社『少年少女日本文学名作全集23井伏鱒二集』）　9

関　良一　山椒魚　言語と文芸　10
＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞

山本　健吉　解説（河出書房新社『日本文学全集7』）　12

河上徹太郎　解説（新潮文庫『駅前旅館』）　12

一九六一（昭和三六）年

関　良一　山椒魚　言語と文芸　3
　＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞

河上徹太郎　井伏鱒二の詩と真実　群像　3

三好　達治　井伏鱒二著「昨日の今」（*共同通信社系新聞）　3

吉田　精一　井伏鱒二と漂流記物　解説と鑑賞　4、5
　＜のち至文堂『現代文学と古典』昭三六・一〇、有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞

三枝　康高　「本日休診」「漂民宇三郎」「駅前旅館」（信貴書院『戦後名作鑑賞』）　5

小沼　丹　随筆井伏鱒二　産経新聞　7・24、25、28、29

島田　昭男　井伏鱒二（学燈社『近代文学研究必携』）　9

阿川　弘之　井伏訳の見事さ―ドリトル先生物語について　図書　10

河盛　好蔵　井伏鱒二との一時間　図書　11

片口　安史　井伏鱒二・精神所見、心理診断リポート　解釈と鑑賞　11
　＜のち至文堂『現代作家の心理診断と新しい作家論』昭三七・一所収＞

精一　井伏鱒二　解釈と鑑賞　11
　＜のち至文堂『現代作家の心理診断と新しい作家論』昭三七・一所収＞

一九六二（昭和三七）年

河上徹太郎　作品解説（講談社『日本現代文学全集75』）　2

浅見　淵　井伏鱒二入門（講談社『日本現代文学全集75』）、月報17（村上菊一郎「思い出すことども」、小沼丹「ステッキ」）　2

桑川　光樹　井伏鱒二（明治書院『現代文学講座（人と作品、昭和編Ⅱ）』）　4

所　一哉　作品の鑑賞（明治書院『現代文学講座（人と作品、昭和編Ⅱ）』）　4

米田　精一　鯉（井伏鱒二）（三省堂『現代日本文学講座・小説6』）　6

河上徹太郎　解説（角川書店『昭和文学全集16井伏鱒二』）、*付録（江藤淳「井伏さんのこと」、森繁久弥「春の日や……」、山本光雄「学生時代の井伏さん」、小沼丹「井伏さんの将棋」）　7

河上徹太郎　文芸時評（「武州鉢形城」他）（*読売新聞）　7・?
　＜のち垂水書房『文芸時評』昭四〇・九所収＞

埴谷雄高、平林たい子、寺田透　創作合評（「武州鉢形城」）　群像　8

奥野健男、佐伯彰一、村松剛（座談会）　井伏鱒二と椎名麟三　文学界　11

一九六三（昭和三八）年

永尾　章曹　井伏鱒二の作品における一問題―「のだ」終止の文を中心に　国文学攷　3

大越　嘉七　井伏鱒二と論理性―鑑賞の客観性とは何か　研究と評論　6
　＜のち法政大学出版局『井伏鱒二の文学』昭五五・九所収＞

河上徹太郎　解説（角川文庫『*珍品堂主人』）　7

米田　精一　山椒魚―井伏鱒二　国文学　9

山本　健吉　解説（河出書房新社『*国民の文学10平家物語』）　11

西田　直敏　井伏鱒二の文体（明治書院『講座現代語5』）　11

大越　嘉七　井伏鱒二「山椒魚」―「井伏文学」の象徴　*研究と評論　12
　＜のち法政大学出版局『井伏鱒二の文学』昭五五・九所収＞

奥村　弘明　「屋根の上のサワン」について　*会誌　?

一九六四（昭和三九）年

安藤新太郎　「山椒魚」の鑑賞（明治書院『講座現代語3』）　4

関　良一　参考文献の利用法　解釈と鑑賞　5

大越　嘉七　井伏鱒二「さざなみ軍記」―井伏鱒二の認識構造　研究と評論　6
　＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一、法政大学出版局『井伏鱒二の文学』昭五五・九所収＞

三崎　洋子　井伏鱒二の文体―「漂民宇三郎」と「渋江抽斎」　国文　7

○　『井伏鱒二全集』第一巻月報1（尾崎一雄「井伏鱒二に関する雑談」、硲伊之助「井伏さんのこと」、三角寛「井伏鱒二尊公」、山本健吉「井伏鱒二氏の文章」）　9

木山　捷平　井伏鱒二　群像　10

○　『井伏鱒二全集』第二巻月報2（今日出海「かけ心地の悪い椅子」、九岡明「挿話二つ」、伊馬春部「朽助以後のこと」、三浦哲郎「初めてお会いしたころ」）　10

大越　嘉七　井伏鱒二と抵抗文学―「鐘供養の日」「遥拝隊長」　研究と評論　11
〈のち法政大学出版局『井伏鱒二の文学』昭五五・九所収〉

吉田　精一　井伏鱒二の人と文学（解説）（偕成社『少年少女文学全集36』）　11

○『井伏鱒二全集』第九巻月報3（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その一）」、青柳瑞穂「井伏鱒二の眼」、井上友一郎「なつかしい井伏さん」、庄野潤三「地震・雷・風」）　11

○『井伏鱒二全集』第三巻月報4（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その二）」、上林暁「井伏鱒二の初印象」、巌谷大四「ガラスと靴」、藤原審爾「井伏さんのこと」）　12

一九六五（昭和四〇）年

浮橋　康彦　屋根の上のサワン　日本文学　1

○『井伏鱒二全集』第四巻月報5（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その三）」、中島健蔵「首のすくむ話」、木山捷平「眼鏡と床屋」、石川隆士「あのとき」）　1

○『井伏鱒二全集』第十巻月報6（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その四）」、谷崎精二「若き日のこと」、村上菊一郎「書画と植木」、安岡章太郎「井伏文学の洗脳力」）　2

○『井伏鱒二全集』第五巻月報7（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その五）」、河盛好蔵「常に新しく」、木下夕爾「鮠釣りのことなど」、田代継男「あれこれの記」）　4

○『井伏鱒二全集』第六巻月報8（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その六）」、武田泰淳「『五十三次』と『三十六景』」、高原四郎「三十年前」）　4

林　房雄　『文芸時評』（桃源社）　4

○『井伏鱒二全集』第十一巻月報9（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その七）」、浅見淵「南越館のころ」、佐藤三郎「井伏さんの絵」）　6

吉田　精一　解説（偕成社『ジュニア版日本文学名作選16・ジョン万次郎漂流記』）　5

○『井伏鱒二全集』第八巻月報10（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その八）」、神保光太郎「将軍と作家」、宮川健一郎「『鬚子の家』以来」）　6

○『井伏鱒二全集』第十二巻月報11（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その九）」、小沼丹「断片」、新本燦根「画室の井伏さん」）　7

○『井伏鱒二全集』第七巻月報12（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その十）」、飯田龍太「濃淡」、広瀬三郎「井伏さんの旧宅」）　8

井伏鱒二・河盛好蔵（対談）　作家の素顔（井伏鱒二）　小説現代　9
〈のち駸々堂『作家の素顔』昭四七・一〇所収〉

東郷　克美　井伏鱒二の青春―その「くったく」した心情について　国文学研究　10

佐伯　彰一　解説（河出書房新社『現代の文学6井伏鱒二』）、月報30（河盛好蔵「古いファンの一人として」、木山捷平「マンデー屋」）　10

伊藤　広子　井伏鱒二　友樹　10

河上徹太郎　井伏鱒二の途　新潮　12
〈のち大和書房『場面の効果』昭四一・一〇所収〉

小沼　丹　解説（角川文庫『駅前旅館』）　12

一九六六（昭和四一）年

河上徹太郎　人と文学（筑摩書房『現代文学大系43・井伏鱒二集』）、月報（中野好夫「はじめて会った井伏さん」、寺田透「井伏さんの虚実」、石井桃子「井伏さんのこと」、田代継男「弘光寺の和尚さん」）
〈『筑摩現代文学大系44』昭五一・五も同内容〉　3

（無署名）「珍品堂主人」井伏鱒二・女と骨董にホレてホレられて（読売新聞社『生きている名作のひとびと―裏からみた昭和小説史』）　3

関　良一　井伏鱒二「山椒魚」―改稿について　国文学　5

江後　寛士　井伏鱒二の世界　近代文学試論　5

佐伯　彰一　戦後文学の断続と連続Ⅱ（新潮社『日本を考える』）　7

（無署名）「黒い雨」のモデル、重松さん広島訪問　読売新聞（広島版）　7・?

奥野　健男　井伏鱒二（読売新聞社『文壇博物誌―人と作品』）　7
〈のち集英社『素顔の作家たち―現代作家132人』昭五三・一一所収〉

江藤　淳　文芸時評（上）（黒い雨）

朝日新聞　8・25
〈のち新潮社『続文芸時評』昭四二・三所収〉

山本　健吉　文芸時評（黒い雨）　読売新聞（夕）　8・29

平野　謙　九月の小説（黒い雨）　毎日新聞（夕）　8・31

進藤　純孝　文芸時評（黒い雨）　サンケイ新聞　8・？

本多　秋五　文芸時評（黒い雨）　東京新聞（夕）　8・29

日野　啓三　文芸時評（黒い雨）週刊読書人9・5

渡辺　忠雄　井伏鱒二「山椒魚」　日本文学　9

島村　利正　解説（大和書房『場面の効果』）　10

伊藤　広子　井伏鱒二と葉山嘉樹―「漂民宇三郎」と「移動する村落」　友樹　10

島田　勇雄　「屋根の上のサワン」と文法のとりたて指導　解釈　10

北原武夫、佐伯彰一、野間宏　創作合評（黒い雨）　群像　10

山本　健吉　地についた平常人　朝日新聞（夕）　10・24

山本　健吉　現実に取り組む現代作家　中国新聞　10・25

東郷　克美　井伏鱒二素描―「山椒魚」から「遥拝隊長」へ　日本近代文学　11
〈のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収〉

菅原　国隆　「黒い雨」と井伏鱒二　新刊展望　11

河盛　好蔵　解説（中央公論社『日本の文学53』）付録32（井伏鱒二・河盛好蔵（対談）「井伏文学の周辺」、亀井勝一郎「井伏鱒二のユーモア」）　11

〈対談はのち「井伏文学について」と改題して中央公論社『対談日本の文学』昭四六・九所収〉

武田　泰淳　井伏鱒二さんの文学　毎日新聞　11・1

（無署名）　井伏鱒二著「黒い雨」　朝日新聞　11・8

小山　裕士　井伏鱒二氏の「黒い雨」を読んで　週刊読書人　11・28

中村真一郎　井伏鱒二　黒い雨（初出誌未詳）　11
〈のち冬樹社『批評の暦』昭四六・一〇所収〉

北村　美憲　井伏鱒二「黒い雨」論　新日本文学　12

日沼倫太郎　井伏鱒二著「黒い雨」図書新聞　12・3

佐伯　彰一　小説家と記録者　朝日新聞（夕）　12・8

月村　敏行　〈原爆〉文学の破綻―井伏鱒二「黒い雨」の勝利と敗北　日本読書新聞　12・2

一九六七（昭和四二）年

○　「（昭和四十一年度野間文芸賞）井伏鱒二氏『黒い雨』に決定」（石坂洋次郎「黒い雨に感動す」、伊藤整「黒い雨について」、井上靖「青空を望む思い」、大岡昇平「黒い雨」、河上徹太郎「『黒い雨』讃」、川口松太郎「野間賞選評」、中島健蔵「野間賞」、中村光夫「『黒い雨』の独創」、丹羽文雄「感想」、舟橋聖一「『黒い雨』の受賞」）　群像　1

古林　尚　井伏鱒二の「黒い雨」　文学的立場2、5、10

（無署名）　ブームの〝実録文学〟　読売新聞　2・19

（無署名）　事実と虚構　朝日新聞　2・23

多田道太郎　井伏鱒二「黒い雨」―ふるさとに落ちた原爆　朝日ジャーナル　3・5

まつもとつるを　井伏鱒二の現実認識　文学者　3
〈のち「井伏鱒二―竹槍戦法としての『黒い雨』の現実認識」と改題して松本鶴雄『背理と狂気―現代作家の宿命』笠間書院、昭五二・三所収〉

相原和邦、磯貝英夫、上杉裕洋、寺横武夫、浜本純逸、槇林滉二、松永信一　合評・井伏鱒二著「黒い雨」　日本文学　4

山崎　正和　ふたたび、物語を超えるもの（芸術時評）　中央公論　4

佐々木基一　現代のリアリズムとは何か　群像　4

小沼　丹　井伏鱒二〈作家と作品〉（集英社『日本文学全集41井伏鱒二集』昭四二・五）　5
〈のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収〉

桜井　克明　「山椒魚」と青春　立教大学日本文学　6

瀬沼　茂樹　解説（河出書房新社『日本文学全集19』）　6
〈のち「井伏鱒二」と改題して河出書房新社『作家の素顔』昭五〇・四所収〉

寺田　透　「黒い雨」　世界　7

浜千代　清　「屋根の上のサワン」を教える前に　女子大国文　7

西田　勝　井伏鱒二の知られざる一面

近代文学研究　8
〈のち一部改訂して『文学的立場』昭四五・一二、八木書店『近代文学の潜勢力』昭四八・所収〉

草部　典一　井伏鱒二『山椒魚』（有精堂『国語教材研究講座（高等学校現代国語）』第一巻）　9

大江健三郎　「黒い雨」と日本文壇（文芸春秋社『現代日本文学館29』附録）　11
〈のち「井伏鱒二と日本文壇の『原爆』概念」と改題して文芸春秋社『持続する志』昭四三・一〇所収〉

安岡章太郎　井伏鱒二伝、解説（文芸春秋社『現代日本文学館29』）　11
〈のち前者のみ河出書房新社『小説家の小説論』昭四五・一〇所収〉

安藤　太郎　「山椒魚」について—分析批評と課題学習　教育研究紀要*　12

一九六八（昭和四三）年

東郷　克美　「黒い雨」感想　研究年誌　1

大野　晋　「黒い雨」と「炎える母」文学界　2

河盛　好蔵　解説（筑摩書房『日本短編文学全集36』）　3

伊藤　嘉啓　動物愛玩の姿—トゥマス・マンと井伏鱒二をめぐって　独仏文学　3

松原　新一　解説（学芸書林『全集・現代文学の発見』5巻）　4

宮原　哲三　ハンザキ（私家版『芦田川物語』）　5

大岡　昇平　解説（学芸書林『全集・現代文学の発見』12巻）　8

広末　保　解説（学芸書林『全集・現代文学の発見』11巻）　12

長岡　弘芳　原爆関係文献案内—原爆文学史にそって　出版ニュース　8

河盛　好蔵　井伏文学の愛読者（新学社『さざなみ軍記』、石森延男「井伏鱒二の人と文学」、小寺政太郎「読書のしかた—『さざなみ軍記』などの読解と鑑賞」）*　10

東郷　克美　井伏鱒二「さざなみ軍記」論（早稲田大学出版部『軍記物とその周辺』）　3
〈のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収〉

開高　健　〝思い屈した〟—井伏鱒二　文芸　3
〈のち河出書房新社『人とその世界』昭四五・一〇所収〉

亀井　雅司　井伏鱒二の表現—初期の作品から　国語国文　4

庄野　潤三　解説（河出書房新社『カラー版日本文学全集23井伏鱒二』）　4

野村　喬　へんろう宿　国文学　6

山本　健吉　『文芸時評』河出書房新社（本日休診漂民宇三郎、黒い雨、その他）*　6

井伏鱒二・神保光太郎（同人対談）「黒い雨」その他　四季　7

庄司　肇　井伏鱒二論　日本きゃらばん*　7
〈のち「笑わない熊の背中（井伏鱒二論）」として南窓社『新戯作者論』昭四八・三所収〉

佐々木均太郎　主題把握は形象読みの過程で—井伏鱒二「屋根の上のサワン」の実践に立って　国語の研究　7

平野　謙　『文芸時評（上・下）』河出書房新社（漂民宇三郎、武州鉢形城、黒い雨、その他）　8、9

長尾　和男　井伏鱒二論(1)　金城学院紀要　9

ジョン・ベスター　Translator's Preface; *Black Rain*　(Kodansha 1969)

加美　宏　「さざなみ軍記」ノート古典遺産14号

一九七〇（昭和四五）年

小沼　丹　解説（『新潮日本文学17井伏鱒二集』）、月報17（庄野潤三「魚・鳥・井伏さん」）　1

開高　健　紙の中の戦争—井伏鱒二「黒い雨」の場合　文学界　2
〈のち文芸春秋社『紙の中の戦争』昭四七・三所収〉

川村　二郎　観察としての小説—井伏鱒二論　文芸　4
〈のち新潮社『幻視と変奏』昭四六・三所収〉

安田　保雄　井伏鱒二「漂民宇三郎—『時規物語』『蕃談』との関連において」　解釈と鑑賞　4
〈のち「『漂民宇三郎』と『時規物語』『蕃談』」と改題して学友社『比較文学論考（続篇）』昭四九・四所収〉

東郷　克美　井伏鱒二・文学入門（河出書房新社『グリーン版日本文学全集24』）　4

田代　継男　作家の横顔（旧作に寄せて）（河出書房新社『グリーン版日本文学全集24』）

月報（小沼丹「井伏さんと将棋」、青柳瑞穂「友人井伏君との初対面」）　4
古林　尚　解説（資料「幽閉」）文学的立場　6
沼田　卓爾　井伏鱒二―「黒い雨」と「武州鉢形城」　民主文学　6
岡本　則子　井伏鱒二の視点―戦前の作品を中心に　国語国文論集　6
河上徹太郎　解説（新潮文庫『黒い雨』）　6
〈のち「『黒い雨』について」と改題所収〉
○　筑摩書房『現代日本文学大系65』月報（尾崎一雄「井伏・上林両氏の色紙」、中西悟堂「清七のつきあい」、谷沢永一「井伏鱒二研究案内」）　8
平野　謙　井伏鱒二『釣人』（河出書房新社『新刊時評（下）』）　8
深沢　七郎　井伏先生と共に（学習研究社『現代日本の文学21』）　9
小沼　丹　評伝的解説（学習研究社『現代日本の文学21』）、月報（井伏鱒二・中島健蔵対談「飲んで学んで議論して」、涌田佑「鉢形城とその周辺」）　9
文学的立場編集部　昭和十年代を聞く（井伏鱒二氏）　文学的立場　9
〈のち「微用作家として」と改題して頸草書房『文学・昭和十年代を聞く』昭五一・一〇所収〉
長岡　弘芳　原爆文学通史（全）　安芸文学　11
〈のち風媒社『原爆文学史』昭四八・六所収〉
東郷　克美　井伏鱒二の庶民的思想―故郷喪失と根源復帰　社会科学討究　12
池田　岬　井伏鱒二　早稲田文学　12
〈のち「風韻と諧謔、愛俗離俗の妙なる境地―井伏鱒二」として講談社『俗聖の文学』昭五〇・七所収〉

一九七一（昭和四六）年

ロバート・J・リフトン　「黒い雨」（朝日新聞社『死の内の生命―ヒロシマの生存者』付録、神谷正太郎訳）　2
繁村加代子　井伏鱒二論―場面の転換についての一考察　広島女子大文学部紀要　3
松本　道介　現代の黙示録　新潮　3
小沼　丹　井伏鱒二の文学（講談社文庫『山椒魚・本日休診』）　7
桜井　幹善　生と死をみつめて―井伏鱒二「黒い雨」をめぐって　民主文学　8
豊田　清史　「黒い雨」と重松日記他（嵩書房『原爆文献誌』）　8
小沼　丹　解説（あかね書房『少年少女日本の文学11井伏鱒二・くるみが丘』）　11
（無署名）　《黒い雨》井伏鱒二（毎日新聞社『この炎は消えず　広島文学ノート』）　12
西岡　光秋　体制の中の詩―井伏鱒二「山椒魚」　詩界（第一一二号）

一九七二（昭和四七）年

ジークフリード・シャールシュミット　「黒い雨」に示したドイツ出版社の反応　波　1
相馬　正一　『太宰治と井伏鱒二』　津軽書房　2
東郷　克美　「多甚古村」の周辺　国文学ノート　3
柳　富子　井伏鱒二とチェーホフの接点　比較文学年誌　3
真鍋マサ子　近代文学に見られる民間伝承―「屋根の上のサワン」と説話性　王朝文学史稿　3
○　「特集『黒い雨』」（小沢俊郎「『黒い雨』のこと（インタヴュー・井伏鱒二氏に聞く）」、猪野謙二「『黒い雨』について」、三浦泰生「教材として『黒い雨』を扱う場合」、白鳥邦夫「授業の日を胸に描きつつ」）　国語通信　3
西郷　竹彦　文体による形象の多層性　教育科学国語教育　4
桑名　靖治　「黒い雨」論　日本文芸論攷　5
古林　尚　井伏鱒二・人と作品　国語の教育　6
永田龍太郎　『井伏鱒二文学書誌』　永田書房　8
○　「特集・井伏鱒二研究」（磯貝英夫「井伏鱒二の位置」、藤本千鶴子「井伏鱒二の会話部方言表現法―『朽助のゐる谷間』の場合」、岩崎文人「井伏鱒二とその郷土」、槇林滉二「初期の井伏鱒二―『岬の風景』を中心にして」、横山信幸「井伏鱒二と常民―『朽助のゐる谷間』『川』を中心に」、田辺健二「『多甚古村』論」、相原和邦「『遥拝隊長』の構造と位置」、江後寛士「『漂民宇三郎』論―庶民文学の方法について」、寺横武夫「『黒い雨』管見」、藤高征子「サバルワルさん―ニューデリー便り」、「井伏鱒二著作年表（昭二一―四〇年）」）　近代文学試論　9
〈のち磯貝文のみ明治書院『昭和初頭の作家と作品』昭五五・六所収〉
安岡章太郎　朝焼け夜空―井伏鱒二　小説現代　9
〈のち講談社『人生の隣』昭五〇・八所収〉

赤頭巾（巌谷大四）　井伏鱒二　（読売新聞社『文壇百人』）　10
畠山　篤　〜ほど〜ない—「山椒魚」の一節をめぐって　日本文学論研究　11
徳永　恂　黒・水中世界・自然のナルシシズム—井伏鱒二論　人間として　12
　＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞

一九七三（昭和四八）年

金井　洋子　井伏鱒二の文学—「山椒魚」と「黒い雨」　文学　2
東郷　克美　戦争下の井伏鱒二—流離と抵抗　国文学ノート　3
　＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞
瀬戸　由雄　井伏鱒二論・覚え書き　近代文学考　3
東郷克美・川副国基（対談）　作者へのアプローチ「隠岐別府村の守吉」　古典と現代　5
森山サチ子　井伏鱒二と「山椒魚」について　高知女子大国文　6
磯貝　英夫　「黒い雨」　解釈と鑑賞　8
　＜のち一部改訂して明治書院『昭和初頭の作家と作品』昭五五・六所収＞
アンソニー・V・リーマン　井伏の文体におけるコミックとコズミック（日本ペンクラブ『日本文化研究国際会議議事録』）　11
山本　昭　「黒い雨」を読ませる　国語科研究紀要　12
広瀬　節夫　「黒い雨」（井伏鱒二）の可能性　国語科研究紀要　12
前山　光則　「屋根の上のサワン」私論　風宴　12

一九七四（昭和四九）年

井伏鱒二・尾崎一雄（対談）　文学青年寮れ群像　1
　＜のち永田書房『尾崎一雄対話集』昭五六・六所収＞
紅野　敏郎　ジョン万次郎—井伏鱒二「ジョン万次郎漂流記」　国文学　3
大内　章好　「黒い雨」—長編としての扱い　国語　3
森　常治　魚族幻想（晶文社『日本の幽霊の解放』）　8
アンソニー・V・リーマン　田舎の井戸—井伏文学の二重の視点　展望　9
松本　鶴雄　井伏鱒二の世界　文芸四季（〜昭51・4）　11
　＜のち冬樹社『井伏鱒二論』昭五三・五所収＞
安岡章太郎　おかしみに就いて—井伏鱒二「小黒坂の猪」　文芸　11
　＜のち講談社『人生の隣』昭五〇・八所収＞
川崎　武司　多様性を生かす感想文の指導—「山椒魚」井伏鱒二の作品について　国語国文学会誌　12
熊谷　孝　井伏文学にどうアプローチするか—「幽閉」「山椒魚」から「丹下氏邸」「さざなみ軍記」へ　文学と教育　12

一九七五（昭和五〇）年

和田　利夫　井伏鱒二「鯉」の成立と背景　日本文学　1
子不語　井伏鱒二・こわい瑣末主義　朝日新聞　2・3
　＜のち「井伏鱒二」と改題して百目鬼恭三郎『現代の作家一〇一人』新潮社、昭五〇・一〇所収＞
佐伯　彰一　井伏鱒二の逆説　新潮　3
　＜のち有精堂『井伏鱒二・深沢七郎』昭五二・一一所収＞
堺　誠一郎　井伏さんの身代り　季刊芸術　4
○　『井伏鱒二全集』第十三巻月報13（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その十一）」、石原八束「井伏先生のこと」、吉岡達夫「Gペン」）　4
○　『井伏鱒二全集』第十四巻月報14（伴俊彦「井伏さんから聞いたこと（その十二）」、堺誠一郎「井伏さんの芸術にかんする言葉」、米田精一「名前のこと」）　7
伴　悦　井伏鱒二　解釈と鑑賞　7
髙橋　英夫　井伏鱒二論—自然と歴史の融解　群像　11
　＜のち講談社『元素としての「私」—私小説作家論』昭五一・六所収＞
熊谷　孝他　井伏鱒二の文体—その成立過程　文学と教育　11
　＜のち鳩の森書房『井伏鱒二』昭五三・七所収＞
アンソニー・V・リーマン　The river:Ibuse's Poetic Cosmology. *Essays on Japanese Literature* (Waseda University Press,1975)

一九七六（昭和五一年）

涌田　佑　自己の文学について誠実な作家（金星社『ジュニア版日本の文学12・井伏鱒二』）1

昆　隆　井伏鱒二―「疎開文学」について　俄草紙　2

熊谷孝、夏目武子　井伏鱒二の文体―その成立過程　文学と教育　2

＜のち鳩の森書房『井伏鱒二』昭五三・七所収＞

中村　明　井伏鱒二（インタビュー）　言語生活　2

＜のち「遊・井伏鱒二」「現代作家の文体と言語意識」として筑摩書房『作家の文体』昭五二・一一所収＞

丸尾　寿郎　小説「黒い雨」の授業―実践をふまえながら　国語通信　3

遠藤　道丸　「黒い雨」の授業展開（実践報告）　国語通信　3

佐藤　泰正　井伏鱒二と文体―「山椒魚」を中心に　解釈と鑑賞　4

＜のち国文社『近代文学遠望』昭五三・八所収＞

磯貝　英夫他　マルクス主義への対応（学生社『政治と文学（シンポジウム日本文学18）』）　4

熊谷　孝　「丹下氏邸」前後―井伏鱒二の文学的イデオロギーについて　*文学と教育　8

杉浦　寿江他　「幽閉」から「山椒魚」へ　*文学と教育　8

鈴木　益弘他　「さざなみ軍記」の総合読み　*文学と教育　8

寺田　透　過去の幻（河出書房新社『無名の内面』）　11

荒川　有史　井伏文体の成立―「幽閉」「山椒魚」から「さざなみ軍記」へ　*文学と教育　11

臼井　吉見　井伏鱒二（筑摩書房『作家論控え帳』昭五二・四）　4

文学教育研究者集団　『文学史の中の井伏鱒二と太宰治』（黒川実他「ゼミナール・井伏鱒二『山椒魚』の印象の追跡」、荒川有史他「ゼミナール・井伏鱒二『さざなみ軍記』の印象の追跡」、鈴木益弘「『さざなみ軍記』の改稿過程」その他）　文教研出版部　4

東郷　克美　井伏鱒二（早稲田文学人物誌）　早稲田文学　5

＜のち保昌正天・栗坪良樹編『早稲田文学人物誌』青英舎、昭五六・六所収＞

中村　明　解説（中公文庫『珍品堂主人』）　7

小坂部元秀　解説（集英社文庫『軍歌「戦友」』）　7

後藤　明生　井伏鱒二「スガレ追ひ」　文芸展望　7

大岡　信　こんこん出やれ―井伏鱒二の詩について　海　8

奥野　健男　井伏鱒二と旅（奥野健男・尾崎秀樹『作家の表象』）　時事通信社　9

前田　富祺　井伏鱒二「珍品堂主人」の末尾（明治書院『現代作文講座（別巻）』）　9

○

『井伏鱒二・深沢七郎（日本文学研究資料叢書）』（中村地平「井伏鱒二論」、谷崎精二「井伏鱒二論」、小沼丹「井伏鱒二」、寺田透「井伏鱒二論」、中村光夫「井伏鱒二論」、徳永恂「井伏鱒二論」、佐伯彰一「井伏鱒二の逆説」、磯貝英夫「井伏鱒二」「小説文体と生活語の問題」、関良一「山椒魚」、吉田精一「井伏鱒二と漂流記物」、大越嘉七「井伏鱒二『さざなみ軍記』」、東郷克美「井伏鱒二素描」「井伏鱒二『さざなみ軍記』論」「戦争下の井伏鱒二」、石崎等「解説―井伏鱒二研究史展望」）　有精堂　11

伴　悦　「山椒魚」の成立をめぐって　文学年誌　12

涌田　佑　初期井伏文学の諸相　現代文学　12

＜のち「井伏文学の出発」として明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収＞

山内洋一郎　井伏鱒二さんの手紙　書想　12

一九七八（昭和五三）年

東郷　克美　井伏鱒二の戦後―太宰の死まで　日本文学　1

夏目　武子　「多甚古村」の世界　*文学と教育　2

山下　明他　「通拝隊長」の印象の追跡　*文学と教育　2

高田　正夫　井伏鱒二の随想　*文学と教育　2

饗庭　孝男　自然と人為―井伏鱒二論　文学界　3

＜のち文芸春秋社『批評と表現―近代日本の「私」』昭五四・六所収＞

荒川　有史　「さざなみ軍記」論ノート―古典平家との対話を基底に　研究紀要（国立音楽大学）　3

涌田　佑　「川」「谷間」「さざなみ軍記」を貫くもの　現代文学　3

＜のち「井伏文学の風土」と改題して明治書

院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収〉

榎本　隆司　井伏鱒二「へんろう宿」　解釈と鑑賞　4

松本　鶴雄　『井伏鱒二論』　冬樹社　5

涌田　佑　「黒い雨」の記録性と小説性　現代文学　5

〈のち明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収〉

涌田　佑　「武州鉢形城」の創作過程　現代文学　6

〈のち明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収〉

熊谷　孝　『井伏鱒二〈講演と対談〉』　鳩の森書房　7

小坂部元秀　解説（集英社『井伏鱒二自選集』）　11

西田　直敏　井伏鱒二　国文学　11

○　「特集・井伏鱒二とシンガポール」（涌田佑「『或る少女の戦時日記』『南航大概記』から『花の町』へ」、横山融「井伏作品『花の町』35年後の舞台を訪ねて」、涌田佑「書誌及び参考文献を配した井伏鱒二年譜」）　現代文学　12

〈涌田文はのち明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収〉

高沢　健三　井伏文学の成立過程　桐朋学報　12

一九七九（昭和五四）年

紅野　敏郎　『青木南八遺稿』について　日本文学　1

〈のち「青木南八と井伏鱒二―『青木南八遺稿』と改題して青英舎『文学史の園（一九一〇年代）』昭五五・四所収〉

谷沢　永一　井伏鱒二訳『父の罪』　浪速書林古書目録　1

〈のち文芸春秋社『紙つぶて二箇目』昭五六・六所収〉

涌田　佑　文芸時評にみる昭和十年までの井伏文学　現代文学　2

〈のち明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収〉

高田　正夫　「鶏肋集」と「半生記」について―井伏鱒二のメンタリティ　文学と教育　2

荒川　有史　「かるさん屋敷」論ノート―長編小説における対話の構造　研究紀要（国立音楽大学）　3

中村　明　井伏鱒二「珍品堂主人」（筑摩書房『名文』）　3

熊谷　孝　井伏鱒二「増富の溪谷」補説―初出稿の表現がサジェストするもの　文学と教育　5

沼田　卓爾　解説（角川文庫『ジョン万次郎漂流記・本日休診』）　5

後藤由美子　忘れ得ぬ日々―井伏鱒二の徴用体験　国文学会誌　5

河盛　好蔵　解説（新潮社『新潮現代文学2・井伏鱒二』）　6

東郷　克美　井伏鱒二（明治書院『資料による近代日本文学』）　7

涌田　佑　「時規物語」「蕎談」を通してみた「漂民宇三郎」　現代文学　9

〈のち明治書院『私注・井伏鱒二』昭五六・一所収〉

蔵前　勝也　井伏鱒二覚え書―敗戦以前を中心に　明治大学日本文学　9

亀井　雅司　災厄の空間―「山椒魚」論　叙説　10

涌田　佑　初期井伏文学の実相―ペルマン・ズーデルマンの影響を中心に　すばる　12

一九八〇（昭和五五）年

寺横　武夫　井伏鱒二と『文芸都市』　日本文学　1

高橋　英夫　文芸時評　すばる　1

涌田　佑　井伏鱒二（明治書院『研究資料現代日本文学①』）　3

紅野　敏郎　「博浪沙」の人びと―酒に托した男子の風懐　国文学　4

安岡章太郎　井伏鱒二の文章と歴史（作品社『さざなみ軍記』）　5

○　『井伏鱒二（作家・作品シリーズ7）』（磯貝英夫「井伏鱒二の方法」、石崎等「井伏鱒二の文体」、東郷克美「井伏鱒二と太宰治」、玉村周「山椒魚」、涌田佑「ジョン万次郎漂流記」、成清良孝「井伏鱒二の市井もの」、ジョン・トリート「海外における井伏文学の受容と評価」、寺横武夫「井伏鱒二研究略史」）　東京書籍　5

涌田　佑　井伏鱒二における〝東洋〟―老荘、そしてついに〝軽安〟の文学　すばる　7

大越　嘉七　『井伏鱒二の文学』　法政大学出版局　9

紅野　敏郎　「岬の風景」をめぐって―井伏鱒二と富沢有為男　群像　10

佐藤　嗣男　井伏文学、初期の相貌―資料「散文芸術と誤まれる近代性」を中心に　日本文学　10

坂根　俊英　井伏鱒二論ノート―出発とその後

函 11

寺横　武夫　山椒魚幻想　国語教育研究　11

（無署名）　井伏鱒二の文学（大越嘉七著）　すばる　12

紅野　敏郎　井伏鱒二と「婦人サロン」　群像　12

寺横　武夫　朽木三助のこと―井伏文学源流一斑　滋賀大国文　12

一九八一（昭和五六）年

涌田　佑　『私注・井伏鱒二』　明治書院　1

ジョン・ツウリト　井伏鱒二の文学の日記（国文学研究資料館『国際日本文学研究集会会議録（第四回）』）　2

里原　昭　大越嘉七著「井伏鱒二の文学」　日本文学誌要　2

涌田　佑　井伏鱒二と林芙美子―「集金旅行」の背景　すばる　3

東郷　克美　「くったく」した「夜更け」の物語―初期井伏鱒二について　成城国文学論集　3

紅野　敏郎　井伏鱒二と「三田文学」―「粗吟断章」のこと　群像　3

槇林　滉二　井伏鱒二「佗助」（九州大学出版会『現代の小説』）　3

田村　秀代　井伏鱒二研究―「山椒魚」「鯉」「屋根の上のサワン」への推移を中心として　宇部国文研究　3

古林　尚　涌田佑著「私注・井伏鱒二」　週刊読書人　4・27

○　『井伏鱒二（現代国語研究シリーズ11）』（大久保典夫「井伏鱒二の史的位置」、相原和邦「井伏鱒二の〈憂鬱〉」、助川徳是「井伏鱒二の〈庶民〉」、山田有策「井伏鱒二の〈言葉〉」、東郷克美「井伏鱒二の〈方法〉」、槇林滉二「山椒魚」、高橋新太郎「『さざなみ軍記』覚え書」、白石喜彦「庶民における意識の不変―『遥拝隊長』論」、寺横武夫「珍品堂主人」、渡辺芳紀「黒い雨」）　尚学図書　5

涌田　佑　井伏鱒二における〝父祖の血〟―「田園記」「雞肋集」の遡及　すばる　6

紅敏　敏郎　井伏鱒二と蔵原伸二郎―「三田文学」での出会い　群像　6

頼尊　清隆　こうもりと井伏鱒二（冬樹社『ある文芸記者の回想』）　6

白洲　正子　珍品堂主人・秦秀雄　芸術新潮　7

紅野　敏郎　井伏鱒二の「聚芳閣」時代　群像　9

東郷　克美　井伏鱒二―昭和四年の風貌・姿勢　解釈と鑑賞　10

ジョン・ベスター　Preface: *Salamander and Other Stories*　(Kodansha 1981)

〈補遺〉

一九三一（昭和六）年

平松　幹夫　八月の創作詩　三田文学　9

一九三三（昭和八）年

三好　達治　序（椎の木社『随筆』）　5

一九三九（昭和一四）年

K・F　文学的人物論・井伏鱒二　文芸　11

〈のち創元社『現代随想全集（河上徹太郎）』昭二九・五所収〉

一九四二（昭和一七）年

富沢有為男　胃袋の日記、私の小説勉強（平凡社『芸術論』）　5

一九五五（昭和三〇）年

臼井　吉見　解説（光文社『戦後十年名作選集3』）　5

一九五六（昭和三一）年

浅見　淵　解説（東西文明社『少年少女のための現代日本文学全集』）　2

中村　光夫　解説（彰考書院『さざなみ軍記』）　5

一九五七（昭和三二）年

臼井　吉見　解説（あかね書房『少年少女日本文学選集18』）　9

一九六六（昭和四一）年

多田道太郎　「黒い雨」井伏鱒二　日本の小説を読む会・会報　11

〈のち潮出版社『本棚の風景』昭五六・一〇所収〉

吉田　精一　戦時下の文学2・芸術派の作家―堀辰雄と井伏鱒二（至文堂『市民の文学2』）　11

一九六九昭和四四）年

浅見　淵　井伏鱒二・夜ふけと梅の花（日本近代文学館『名著複刻全集・近代文学館・作品解題―昭和期』）　9

一九七二（昭和四七）年

武田　勝彦　チェッコ人の井伏論　新潮　1

平野　謙　解説（毎日新聞社『戦争文学全集2』）　2

井伏鱒二・河盛好蔵「山椒魚」まで（毎日新聞社『人と影』）　5
永井　龍男　この頃の井伏さん（ほるぷ出版『名作自選・日本現代文学館（別冊）』）　12
中島　健蔵　戦地における井伏鱒二（右同）　12

一九七三（昭和四八）年

河上徹太郎　香気あるユーモアとペーソス〈井伏鱒二の文学〉（千趣会『文学の旅14（山陽・瀬戸内海）』）　1
高田英之助　無題（右同）　1
磯貝　英夫　戦争文学について　国語科研究紀要　12

一九七五（昭和五〇）年

紅野　敏郎　土佐人の系譜・田中貢太郎『桂月先生従軍記』　国文学　6
〈のち冬樹社『本の散歩・文学史の森』昭五四・一所収〉

一九七六（昭和五一）年

まえさわ　あきら　日本列島住民の〝苦労話〟を読む（金星社『ジュニア版日本の文学12』）　1
佐伯　彰一　井伏鱒二『山椒魚』とチェホフ（NHK大学講座『文学・比較文学の展望』）　4

一九七七（昭和五二）年

山碕　雄一　実践授業の展開（「黒い雨」）（右文書院『戦後小説の教え方』）　1

一九七八（昭和五三）年

佐々木郁郎　理解活動を主にした関連指導（「黒い雨」）　教育科学国語教育　3
磯貝　英夫　井伏鱒二（有斐閣『戦後の文学（現代文学史）』）　5
○「〈誌上出版記念会〉松本鶴雄『井伏鱒二論』」（神谷忠孝「井伏鱒二と『新興芸術派』」、根岸隆尾「ささやかな感想」、今村忠純「『井伏鱒二論』の彼方へ」、曽根博義「『井伏鱒二論』の視点」）　評言と構想　9

一九七九（昭和五四）年

井筒　満　詩文学と散文学「かきつばた」（井伏鱒二）「戦場」（花森安治）をめぐって　文学と教育　2
有山　大五　片隅の美学―井伏鱒二と庄野潤三（森安理文編『近代説話文学の構造』明治書院）　9

一九八〇（昭和五五）年

川本　彰　太平洋戦争と文学者―軍政下における火野葦平・井伏鱒二について　明治学院論叢　3
紅野　敏郎　「博浪沙」の人びと―酒に托した男子の風懐　国文学　4
〈のち「田中貢太郎・井伏鱒二―『博浪沙』・随筆一五人』と改題して青英舎『白樺の本・文学史の林』昭五七・五所収〉
敏郎　井伏鱒二と「桂月」　群像　7
檜垣　良夫　眼と口―二つの漂流記　国語教育研究　11

一九八一（昭和五六）年

根岸　隆尾　井伏鱒二「黒い雨」（有精堂『中学校国語科教育の理論と実践（第四巻）』）　2
寺門　正人　黒い雨（第一法規『中学実践事例集』）　4
田岡　典夫　『とともじり』（平凡社）　2
〈「竹斗可稿」と題して『高知新聞』に連載したものが初出〉
小林　国雄　小説教材とその指導法（黒い雨）（大修館『国語科教育の実践』）　6
涌田　佑　井伏文学についての二、三のこと―槇林滉二氏への反論を兼ねて　国語展望　11
（無署名）　井伏鱒二著・海揚り　朝日新聞　11・16
東郷　克美　「山椒魚」、石垣義昭「黒い雨」（日本文学協会編『読書案内（中学・高校編）』）　11
渋川驍・大越嘉七（一冊二人書評）事実に語らす存在の重み―井伏鱒二著『海揚り』にみる描写の力　図書新聞　11・21
紅野　敏郎　井伏鱒二と中村正常　群像　12
安岡章太郎　「海揚り」井伏鱒二　新潮　12
池田　純溢　井伏鱒二と大岡昇平―「黒い雨」と「レイテ戦記」の方法（国書刊行会『新批評・近代文学の構図』）　12

一九八二（昭和五七）年

涌田　佑　井伏鱒二と牧野信一―「屋根の上のサワン」から「晩春の旅」まで　すばる　1
清水　昭三　井伏鱒二論―『遥拝隊長』を中心に　新日本文学　1
大越　嘉七　「屋根の上のサワン」の「左の翼」―井伏文学の象徴性　日本文学　1
駒田　信二　井伏鱒二の訳詩　すばる　1
（無署名）　海揚り・井伏鱒二　すばる　1
中谷　孝雄　『海揚り』を読む　群像　1
河盛　好蔵　井伏鱒二著「海揚り」　文学界　1
巌谷　大四　井伏鱒二の「白毛」（河出書房新社「文壇ものしり帖」）　1

増田みず子　涌田佑著『私注・井伏鱒二』（明治書院）　文芸　1
沼田　卓爾　運命と人為―井伏鱒二文学の一側面―「山椒魚」から「兼行寺の池」まで　国語通信　2
紅野　敏郎　井伏鱒二と小沼達　群像　3
三国　一朗　井伏鱒二（『三国一朗の人物誌』）　3
斉藤　慎爾　井伏鱒二氏―豊多摩郡井荻村飄々の日　アサヒグラフ　4・30
河野多恵子　文芸時評（「豊多摩郡井荻村」）　朝日新聞　5・24
紅野　敏郎『さざなみ軍記』の回想文　群像　6
嘉瀬井整夫　井伏文学における手紙の効用　関西文学　6
大越　嘉七　井伏文学研究における二、三の問題　日本文学　7
小沼　丹　解説（弥生書房『現代の随想17井伏鱒二集』）　7
植垣　節也　井伏鱒二(一)―「山椒魚」を読む　月刊国語教育　8
巌谷　大四　『黒い雨』井伏鱒二（文化出版局『名作こぼればなし』）　8
（無署名）　黒い雨・井伏鱒二　〈諸国名作の旅〉　朝日新聞滋賀版　8・30
紅野　敏郎　井伏鱒二と「月刊文章」　群像　9
涌田　佑　井伏鱒二と柳田国男―「青ケ島大概記」と「青ケ島還住記」　すばる　9
植垣　節也　井伏鱒二(二)―「山椒魚」の成立　月刊国語教育　9
庄野　潤三　歴史と記憶―井伏鱒二著『海揚り』　波　10
植垣　節也　井伏鱒二　(三)　―「屋根の上のサワン」を読む　月刊国語教育　10
植垣　節也　井伏鱒二　(四)　―「黒い雨」の評価　月刊国語教育　11
紅野　敏郎　井伏鱒二と青柳瑞穂　群像　12
植垣　節也　井伏鱒二　(五)　―「黒い雨」の描写　月刊国語教育　12
庄野　潤三　汽笛と武蔵野の森―『荻窪風土記』井伏鱒二　新潮　12
河盛　好蔵　井伏鱒二著『荻窪風土記』　波　12
村上　護　井伏鱒二著『荻窪風土記』　図書新聞　12・11

一九八三（昭和五八）年

涌田　佑　井伏鱒二と太宰治―その人と文学の類似と異相　すばる　1
植垣　節也　井伏鱒二　(六)　―「槌ツア……」を読む　月刊国語育教　1
谷沢　永一　箍の緩んだ職人芸の空転と逆効果　すばる　1
稲垣　達郎　『荻窪風土記』井伏鱒二　群像　1
井伏鱒二、安岡章太郎（対談）片隅の昭和史―『荻窪風土記』の周辺　新潮　1
新刊紹読同人　観察する文章の極北―井伏鱒二『荻窪風土記』　海燕　1
海老井英次　井伏鱒二「ああ寒いほど独りぼっちだ」他　国文学　1
菅野昭正、高橋英夫、奥野健男、西尾幹二、篠田一士　肯定と否定―文芸時評・一九八二年　文学界　1
紅野　敏郎　井伏鱒二と小野松二　群像　2
河盛　好蔵　荻窪五十年　文学界　2